



せんがまち棚田田植えの様子

〈大変だと感じる時は〉

「つなぐ棚田遺産」認定を頂き、補助金が入るようになって、ようやく作業員を一人確保できるようになりました。

しかし、棚田の運営・管理はほとんどがボランティア。特に茶農家をやりながらだと農作業が連続となり、休む暇が無くなります。パソコンでの事務作業もできる人が限られるため、負担が大きいです。

また、後にどう繋いでいくか、後継者が育たないことも悩みです。

暑い季節ほど草もよく伸びるので、複数回実施しなければならぬ草刈り作業や、会員の高齢化も課題です。

〈今後の新しい試みについて〉

今年度、バイオトイレの設置や労力不足を補うために、トラクターや自走式草刈り機の導入もしており、さらに充実させることを目標としています。

そして、「せんがまち棚田を、菊川市の、日本の桃源郷にしたい」という大きな理想を描いています。

そのために、荒れている部分の整備や、棚田とあわせて東海道本線の車窓から見てもらうため、梅、桃、桜を植樹するなど、もっと魅力ある棚田を目指しています。

できれば数年以内に観光資源としての結果を出したいと考えています。



せんがまち棚田田植えの様子

取材へのご協力をありがとうございました。
せんがまち棚田倶楽部の益々の発展をお祈り申し上げます。